

江東区の職場・地域、議会などからし・平和を守る運動をご紹介します。

命の格差を許さない 地域医療と福祉のネットワーク



往診に出かける吉沢敬一医師と看護師

医療費削減のための度重なる改悪による負担増は堪え難いもの、受診・入院抑制によって医療・介護難民が生まれています。病院も経営難や医師・看護師不足のために縮小・廃止に追い込まれています。その中で地域住民や諸団体に支えられ、献身的に活動している医療機関が江東区にあります。民医連の精神に基いて切実な患者の願いに応える医療と福祉について、吉沢敬一江東診療所長に聞きました。

24時間365日 地域住民を見守る

「愛生会」の名で 所の指定を受けています。親しまれていた江東、扇橋両診療所は、効率的な診療と医療をすすめるために、二年前に港・江戸川・江東地域の医療法人財団・南葛勤医協に入り、在宅支援診療

吉沢先生の場合は、80人を担当し、一回に4

ネットワークで支える

大島・白河訪問看護ステーション、ファミリーケア大島・深川、デイサービスセンターの花、西大島薬局、ちひろ介護相談室が診療所と連携しています。看護師も携帯電話を持ち、患者を見守り、坐薬や血圧計から朝夕のおむつ交換など、巡回

住民参加の健康なまちづくり

城東・深川二支部、それぞれ五百人をこえる会員を擁する江東健康友の会が多様な活動



江東健康友の会 深川支部 「ふれあい食事会」

条・生き生きと暮らす権利」記念講演・歌・マジック・土建主婦の会のレクダンスなど300人以上の参加で大盛況でした。城東支部も総合区民センターで23日開催しました。核家族化の傾向によって、ひとり暮らしの老人がふえ孤独死などの悲劇が起っています。友の会は地域住民のふれあいを求めて、食事会・手芸教室・絵手紙サークルなどの活動を展開します。さらに、医師・看護師ふやせの署名や老朽化した病院の改修、医療機器の更新などの資金への協力を訴えています。

国保料負担の軽減を！

難病医療・産科拡充など意見書提案
日本共産党江東区議団

国の医療制度改悪の

もとても、病気やケガ

のとき安心してお医者さんにかかれる環境を整えるのは区の重要な仕事です。ところが、

今「小児科医、産科医が足りない」など医師不足が大きな問題となっ

乳がん検診の対象年齢引き下げ、インフルエンザ予防接種や国保料の負担軽減など、来年度予算要望書で実現を求めました。

11月の定例議会には

政府に『難病医療費の公的負担拡充』『産科医不足の解消』を求めて意見書を提案します。

ひきつづき医療の改善を提案しその実現に取組んでいきます。

12月の行事案内

4日(月) 18時15分

映画「戦争と平和を考える映画会」江東文化センター視聴覚室参加費300円

10日(日) 13時30分

女性のつどい、砂町文化センター一階

13日(水) 11時・16時・19時開演、映画

赤旗まつり、魚戸カメリアホール

23日(土) 19時「青年学習講座」江東文化センター第三研修室

潮騒

赤旗まつりは 出会いの場、昔に帰る時でもあります

最終日、江東のテントで多くの人と会うことができました。お互いに顔を見て、懐かしく近寄りながら「名前を：」「出会を：」思い出し、握手をして話が弾む。Aさんとは三十二年ぶりに再会した。二十代、平和、要求運動で青春を賭けて活動した仲である。いつか会わなくなったなと思っていたら、Aさんは仕事で長期出張が多く、運動もままならなかったとのこと。それでも出張先では地元の運動に協力してきたという。今年定年を迎えるとの話に、「また、一緒にやろう」と呼びかけると、ウンとうなずいてくれた。三十数年の時を経ての決意で遠巡りもあったが、それを乗り越えた力は青春の思い出だった。▼テント撤収時は、もうあたりは暗い、安売りの時間帯である。半値となった岩魚の塩焼きを頬張り、やはり半値の「若狭の浜焼き鯖寿司」を食べる。赤旗まつりは「安くて美味しいものとの出会い」の場でもある。

平和・暮らし風土記⑬

人間らしく暮らしたい

第18回江東区
高齢者集会

増税、医療・介護の改悪に怒り

民主的な地域医療を守って 「愛生会」物語



戦後、焦土から立ち直ってきた1951年当時は、栄養不足による諸病、特に結核が蔓延。江東に民主診療所建設運動が起りました。日雇労働者のカンパ、中小業者の寄付や備品、資材が、大きな期待とともに寄せられ、

8月には大島1丁目に江東診療所を開設することができました。医師、看護婦、事務長、主任などと数人のパート医師という小診療所からの発足でしたが、早朝の亀戸職安での集団検診、レントゲンや心電計などの最新医療機器、民医連と連携し、患者の要求に応える親身な医療で、「赤い診療所」と敬遠さいがちな地元町会役員からも「医療に赤も白もない」と支援を受けられるようになりました。

1957年、発起人97名で医療法人財団設立準備会をつくり、名称も「愛生会」と決めて、江東民商、東建従、江東土建、自労深川分会の団体も加盟する法人組織のもと、モルタル二階建ての有床診療所が開所。1959年、深川地域にも常勤3人の扇橋診療所が設立されました。

小児マヒから子どもを守る運動では、愛生会と町会で集めた13,233名の署名を持って区議会に陳情、都と厚生省への意見書が可決され、生ワクチンを輸入することができました。親身な相談と運動で、医療扶助や減免、国保の7割給付、老人健診や老人医療費の無料化などの要求を実現し、診療所受診者は70年代には倍化します。1971年12月、鉄骨3階建ての現在の診療所が完成、30班、800人の友の会が多彩な活動によって支えました。



11月12日(日)、総合区民センターで第18回高齢者集会が開かれ一七〇人を越える人々が参加しました。午前は平和・介護・医療・年金と税金等4つの座談会、午後は憲法・暮らしの二つの記念講演が行われました。(左の写真は、江東区高齢者集会以て挨拶する岡田公明実行委員長)

高齢者の暮らしを脅かす 医療・介護の改悪、保険料値上げ

午前の座談会では、「今、区役所の電話が鳴りっぱなし」「介護保険、国保の減免、マル福の復活」等の怒りや悲憤な意見がのべられました。所得税・区民税、国保・介護保険料引き上げ、加えて医療の大改悪。力を合わせて反対運動広げ、春のいっせいで地方選、夏の参院選で悪政「ノー」の声を上げようと語りあいました。

平和こそ暮らしを守る保障

午後のは全体会は、ビデオも使って江東9条の会事務局・吉川晃氏が「今、なぜ9条を変えようとしているのか。押しつけられたのは憲法9条でなく再軍備だった」と講演。「憲法9条の成立経緯からその変遷までよくわかった」「父から戦争の厳しさ、怖さを受け継ぎました。基地のそ

10月から医療・介護の負担増(2年間の経過措置あり)

医療 保 険	①70歳以上の高齢者に2割から3割増坦に。(住民税課税所得が145万円以上。ただし、総収入が1人で383万円未満、2人で520万円未満のいずれかに該当する場合は1割負担)		
	②70歳以上長期入院は、食事・居住費52,000円に		
	③高額療養費の自己負担限度額(2年間の経過措置あり)		
		外来個人	世帯単位で入院・外来を合算
	2割以上負担の人	44,400円	80,100円
	1割負担の人	12,000円	44,400円
	非課税の人	8,000円	24,600~15,000円
介護 保 険	要介護1・要支援など軽度者に対して ①介護ベッド、車椅子など福祉用具貸与を原則保険外に(1割~全額負担)②ヘルパーを派遣しない。		

今後も続く医療大改悪……

- ①08年 70~74歳の人は1割負担が2割に。
- ②75歳以上全員から保険料を年金から天引き。滞納者から保険証を取り上げ、「資格証」を交付。(資格証の場合は、障窓口で医療費全額負担、保険料滞納分を引いて差し戻し)。独自の診療報酬で高齢者の医療差別。

高齢者が力を合わせ、世直しを

ばで育ったため外国兵の悪さもよく知ってます」「戦争は絶対に起してはならない。世など感想が寄せられました。界のお手本の憲法9条は永遠に残さなくてはならない」

高齢者の暮らし・健康、政府の医療・福祉政策の問題点をテーマに日本高齢者運動連絡会事務局長・篠崎次男氏が講演。氏は冒頭、「憲法9条を守るものが暮らしを守る道」とのべ高齢者を脅かしているものを見つめ、そのために一人ぼっちをなくし、力をあわせくらしをすくすく」と訴えました。「病気に

アピール

「平和を、人権を守ろうではありませんか。『人間らしく暮らしたい』『一人ぼっちの高齢者をなくし、一緒に手を取り合おうて世直しの運動を広げて行く』ではありませんか。命を大切に、年をとっても豊かで人間らしく生きていける江東区を、そして日本を作ろうではありませんか」(一部抜粋)



「どうなるのこれからの医療」の座談会